



オリコンサルHD

海外の重点化事業拡大

受注高と受注残高 過去最高を更新

オリエンタルコンサルタンツホールディングスは、国内外の市場環境変化も見据え、2021年9月期から重点化事業を国内5事業、海外5事業の計10事業に拡大。特に海外市場での競争力強化に向け

て、新たに「民間事業」「O&M（運転管理・保守運用）事業」「スマートシティ開発事業」「BIM事業」「事業投資」を設定した。27日に開いた20年9月期決算説明会で野崎秀則社長は「この5つに

絞って投資していかないと長期的な成長はない。戦略を立ててこれを伸ばしていきたい」との考えを示した。写真。重点化事業はこれまでインフラ整備・保全、防災、交通、地方創生、海外新規開拓の5事業とし、20年9月期では合計83件の重点化プロジェクトを実施し、事業創造・拡大につなげている。

21年9月期からは、国内市場でインフラ整備・保全を道路系と水系に分け、従前の防災と交通、地方創生の5事業に設定。新たに海外5事業を設けることとさらなる成長エンジンとして事業を創造、拡大する。21年9月期では全体で102件以上の重点化プロジェクトを推進する計画だ。

20年9月期の連結業績は、新型コロナウイルス感染症の影響もあって売上高は前期比0・5%減の628億8000万円となったが、テレワーク整備などによる業務の効率化により営業利益は11・6%増の27億700万円となり9期連続で増益を達成した。

また、連結受注高は前期比3・9%増の918億3800万円、受注残高は25・5%増の1488億700万円とともに過去最高を更新。特に海外は売上高4年分以上となる1135億5500万円も

の受注残高を確保しており、コロナ禍の影響など先行きの不透明感が増す中でも今後の安定的な売上計上に寄与することが期待される。

21年9月期は売上高が1・0%増の635億円、営業利益が1・6%増の27億5000万円、経常利益が4・8%増の26億6000万円、純利益は8・1%増の16億6000万円と売上高、利益とも過去最高の業績を計画している。